

7月18日 第9回科学の祭典 in 菊池  
科学の不思議を体験

第9回科学の祭典 in 菊池が菊池市文化会館小ホールで開催され、家族連れなど多くの子どもたちが実験や体験を楽しみました。会場には、スライムを作って風船のように膨らませる実験や、金属探知機で宝探しをしたりブーメランを作って飛ばしたりして遊ぶなど15種類の実験ブースを開設。参加した子どもたちはスタンプラリーをしながらさまざまな実験に挑戦していました。



巨大シャボン玉づくり

7月19日 音楽の祭典  
746ミュージックフェスタ2015

746 (ナナシロ) ミュージックフェスタ 2015 は七城鴨川公園で開催され、大勢の来場者でにぎわいました。ステージでは4組のミュージシャンがアニメソングやポップソングを披露。訪れた多くの観客を魅了しました。ころう君と幼稚園・保育園児による「ころう君体操」や七城天守太鼓の力強い演奏、菊池市少年少女合唱団による合唱などもあり、音楽の祭典を楽しんでいました。



幼稚園・保育園児と一緒にころう君体操

7月19日 第11回菊池市子ども会  
ビーチボールバレー・ソフトボール大会

第11回菊池市子ども会ビーチボールバレー・ソフトボール大会が泗水体育館で開催されました。参加した子どもたちの熱戦が繰り広げられ、大いに盛り上がりました。

優勝チームは次のとおりです。

ビーチボールバレー  
伊坂子ども会  
同オープンの部  
富の原台区子ども会A  
ソフトボール  
岩本子ども会



ビーチボールバレー競技で優勝した伊坂子ども会

7月16～27日 泗水町ナイターソフトボール大会  
真夏の球宴 永区が制覇

泗水町ナイターソフトボール大会が泗水グラウンドで開催され、泗水町内の各行政区から25チームが参加し、5日間にわたり熱戦を繰り広げました。

試合中、足が空回りして転倒する人や、ホームランを打って祝福を受ける人もいるなど盛り上がりを見せました。

上位の結果は次のとおりです。  
優勝 永区  
2位 福本一区  
3位 村吉区、上住吉(桜)区



優勝した永区

7月18日 地域づくり人材育成研修会  
やねだんに学ぶ人材育成

地域づくり人材研修会が市内2カ所であり、菊池観光協会や菊池市中央公民館迫間支館地区の役員が参加しました。私たちの困り事は何か、私たちの強みは何か、自分たちで解決できることは何か、行政にお願いしたいことは何かの4つをテーマに各団体およそ2時間ワークショップを行いました。参加者からは「ここで出たアイデアを、具体的に進めることが必要だ」などの声がありました。



ワークショップで意見を出し合う参加者

7月19日 華麗な音色にうっとり  
松本俊明さんミニコンサート

作曲家でピアニストの松本俊明さんのコンサートが宮村ホールで開催され、市内外から約150人が音色に酔いしれました。松本さんは自身の曲のほか、歌手のMISIAに提供した曲など9曲を披露。来場者からのお題に応じて即興で奏でるパフォーマンスもあり、卓越した演奏で観客を魅了しました。演奏を聴いた観客は「やさしい音色に感動しました。また菊池に来てほしいです」。



華麗な演奏を披露する松本さん

作文

社会を明るくする運動



中学生の部優秀作文

和 ～人とのつながり～

泗水中学校3年 永田真咲希さん

「情けは人のためならず」  
みなさんは、このことわざの意味を知っていますか？ このことわざは、よく「やさしさは人のためにならない」というように解釈されやすいですが、実は違います。このことわざの本当の意味は、人にやさしくすることは、人のためではなく自分のために返ってくるという意味です。これは、昨年、国語の時間に先生がおっしゃいました。  
私は、本当にその通りだと思いません。小学校6年の冬、こんなことがありました。  
母と私が家に帰るバスに乗っていると、不安そうに外をきよるきよる見るお年寄りの女性がおられました。話を聞いてみると、その方はバスの通っていないここからほど遠い町へ帰りたいのだと言っています。  
私たちはただ、その町から最寄りのバス停を教えるだけのことしかできません。その先は、自分で歩かないといけないのです。仕方ないことです。私たちは、自分が降りるバ

ス停でバスを降り、その方を見送りました。  
家に帰ってからも、ずっとその方が心配でなりません。母が言っていました。  
「うちの車で家まで送ってあげよう」  
私は、すぐに賛成し車に乗り込みました。  
さつき教えてあげたバス停から、町の方向に車を走らせると、その方はすぐに見つかりました。私が、「どうぞ。乗ってください」と声をかけると、申し訳なさそうにしながらも、「寒かったあ」と言いながら、うれしそうに乗り込まれました。私たちはその後、車の中でいろいろな話をしました。大抵、その方がしゃべって、私たちが相づちをうちました。よく話される方でした。  
家に着くと、その方は何度も何度も「ありがとう」とおっしゃいました。そして、中に入っていきました。私たちはほっ

と一安心して、家に帰りました。  
あれから、ちょうど一年後の冬、あの方の名前や顔も忘れようとしていた頃、一本の電話がありました。それは、あの女性の方からで、「渡したいものがあるから、今から来てほしい」という内容でした。私たちが指定された所へ行くと、その方はもう待っておられました。  
そして、少し話をした後、その物を渡されました。それは、その方が旅行に行かれた時のお土産でした。その方は、一年経った今も、あのとき、私たちがしたことを忘れてはおられないのでした。こちらは忘れていても、すっかり覚えていらったのです。  
このように、人と人とはつながることができません。一人一人が思いやりの心を持って、そのつながりは、無限大に広がるのではないのでしょうか。  
これから私は思いやりの心を持ち、人との和を大切に、生きていきたいと思いました。